



平成14年度 野生動物保護活動助成事業
「オジロワシ野生復帰事業」

— 抜 粋 —

オジロワシ野生復帰研究会

〔はじめに〕

オジロワシは、ユーラシア大陸北部に生息する大型の海ワシで、日本には、主に冬鳥として北海道東部を中心に飛来するが、ここでは昔から少数が留鳥として繁殖している。

最近では、シカ猟に使用される鉛弾の影響から、鉛中毒による死亡例が急増し、急激な生息数の減少が心配されており、保護活動が必要な種となっている。

このような状況を踏まえ、オジロワシをはじめとする絶滅のおそれのある猛禽類の野生復帰技術の確立とオジロワシの極東地域個体群の補充を目的に、北海道の動物園や大学、博物館・研究者や行政機関等14団体が中心となって、1997(平成9)年に「オジロワシ野生復帰研究会」を発足させ事業に着手した。

事業の実施区域は北海道内とし、飼育下繁殖個体のほかに、多くのオジロワシとオオワシが傷病鳥として保護收容されることから、治療回復後に放鳥するこれらの個体を活用して放鳥や追跡の技術及びこれらに基づくデータの蓄積を図ることになっている。

〔活動の概要〕

ア. 受信施設の拡大

飼育下で繁殖した個体及び傷病鳥で治療回復した個体に発信機を装着し放鳥した個体を受信装置により追跡しているが、基地局が釧路市動物園内一カ所であり、受信範囲の制約等のため必ずしも順調に追跡できなかった。平成14年度事業として、2番目の基地局を帯広市内に設置した。

これによって、(1).平成14年8月31日に釧路で放鳥したが、3日後から受信できなかったオジロワシを平成15年3月に帯広市で受信し、生存を確認することができた。(2).2000(平成12)年及び2001(平成13)年にロシアで放鳥したオオワシを帯広で受信確認した。

今後も北海道東部地域をカバーできるよう施設の整備に努めたい。

イ. 放鳥及び受信・追跡調査

(ア) 放鳥一期間中に厚岸湖で放鳥した実績は次のとおり。

No	放鳥年月日	種類	保護年月日	年 齢	備考
1	平成	オオワ	平成	9歳	保護後8年間ケージ内で飼育し

	15.1.27	シ	6.12.28	た	個体
2	平成 15.2.19	オオワ シ	平成15. 2.18	幼 鳥	羅臼町の海面に落下、保護・治療した個体
3	平成 15.2.28	オオワ シ	平成 14.12.25	幼 鳥	散弾による翼骨折で保護・治療した個体

(イ) 受信追跡調査

上表の3羽を含み、期間中の受信追跡調査の実績は次のとおり。

No	放鳥年月日	種類	受信追跡状況
1	平成 15.1.27	オジロワシ	釧路で放鳥後6月間は受信確認、その後受信が途絶えていたが平成15年3月に厚岸で再受信され生存を確認した。
2	平成 14.8.31	オジロワシ	放鳥後3日から受信できなくなっていたが、平成15年3月に帯広市で受信され生存を確認した。
3	平成 15.1.27	オオワシ	4月末まで厚岸湖周辺に留まっていた。その後受信できずにいたが6月4日に同湖から20kmの場所で衰弱した状態で収容した。
4	平成 15.2.19	オオワシ	4月上旬まで厚岸湖周辺で受信確認、4月下旬稚内地方で確認、その後モニターできずサハリン方面に渡ったと思われる。
5	平成 15.2.28	オオワシ	4月末以降受信が途絶えていたが、7月4日死体で発見した。レントゲン検査の結果、列車による衝突事故死と考えられる。

(ウ) ニュース紙(オジロワシニュース)の発行

追跡にあたって、地域住民の協力を得ることができるようになったので、関係者及び受信追跡協力者等を対象にニュース紙(No28~34)を発行した。

(エ) 海外研究者との共同研究

2000年及び2001年の6~8月にロシアで50羽のオオワシ、オジロワシの巣内ヒナに発信機をつけてリリースし、行動調査を行っている研究者グループに協力し、当研究会が北海道内で14羽を確認した。

(オ) シンポジウムの開催

本事業の推進にあたっては、地域住民の理解・協力を得るとともに、広く住民の意見を取り入れることが必要である。“オジロワシ・オオワシの現状と将来”—いま、できることをさがして—と題するシンポジウムを次のとおり開催した。

○ 旭川シンポジウム(平成15年2月15日)

会場：旭川市大雪クリスタルホール国際会議場

講師：David Kennes Garcelon 「オオワシとオジロワシの保全活動について」

Vladimir Masterov 「ロシアのオオワシ・プロジェクトについて」

斎藤慶輔 「オオワシの生活史と人間活動について」

志村良治 「オジロワシ野生復帰研究会の取組みについて」
参加者：約100名

○ **札幌シンポジウム（平成15年6月14日）**

会場：札幌サンプラザ

講師：Roy Dennis 「スコットランドにおける希少猛禽類の人工移入計画」

斎藤慶輔 「サハリン開発とオオワシの危機」

志村良治 「オジロワシ野生復帰研究会の活動について」

北村健一 「円山動物園のオオワシ・オジロワシについて」

参加者：約120名

[閉じる]